

SORA

web magazine 2019.apr. vol.106

Thailand

Travel

Similan, Khaolak

Photo & Text : Yasuaki Kagii

MAP
CLICK!

ビッグブルーカオラックで潜るアンダマン海クルーズ&デイトリップ!

毎年GWまで、シーズンになると盛り上がりを見せるアンダマン海。人気のビッグブルーカオラックにお世話になり、ダイブクルーズ&デイトリップを満喫してきた。魚群の豊富さでは、今

季最高と呼ばれたリチュエーロックをはじめ、大物に出会えたコタチャイ、サンゴの復活が嬉しいコボン。そして巨大な奇石の連なりが特徴的なシミラン諸島を巡り、潜ってきた。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2019
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

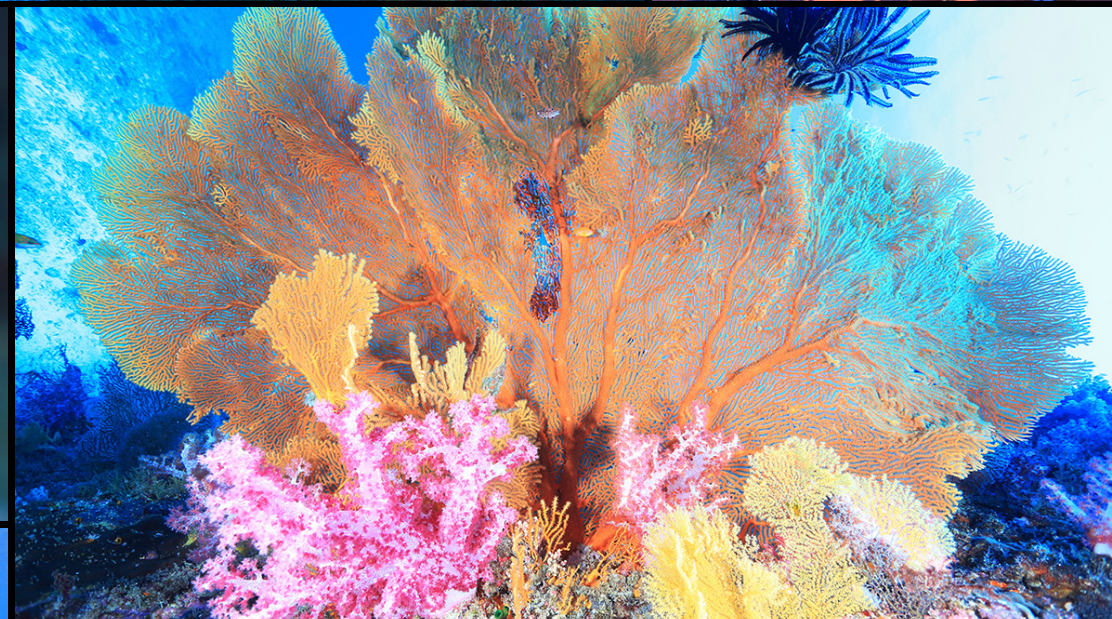


クルーズ初日、まずはシミラン諸島へ!

前日の夜にクルーズ船に乗船し、1晩を過ごす。それほど長い移動距離ではないが、翌日の朝には、シミラン諸島でダイビングを開始できる。チェックダイブを兼ねて、潜り込んだのが、hideawan bay。水深30mあたりに沈船が横たわり、隣に大きな赤いイソバナが咲いている。そして、水深を上げながら、キンセンフエダイの群れやウミシダの近くで泳ぐジャクスズメダイの幼魚などを撮影する。浅瀬を漂っていると、ガイドの健さんが指差す先に初めて見るお魚がいた。コイトンと言ってハギの一種で、コイとは、鯉から名付けられたもので、個体によってデザインが異なるとのこと。神経質でもなく、接近して撮影できたので、かなり嬉しいファーストダイブとなった。2本目は、west of eden へ。最初水深を下げて、ガレ場の海底でマッコスカーズラスを撮影。たくさんのオスがフラッシングしているのに、タイミングを合わせるのがなかなか難しい。でもその美しい姿はやはり何度撮影しても楽しい。少し水深を上げて、大きないくつものイソバナが重なり合う場所へ。下から覗き込むと異空間で、色彩の館のような感じに。そこにユカタハタが泳いで来てくれるので、これまた絵になる景色となる。さらに水深を上げて、浅場でシシマイギンボなどを撮影。ガイドの健さんが、海底にたくさんの成長途中のサンゴが群棲していると、嬉しそうにボードに書いてくれた。



Thailand **Similan, Khaolak**
シミラン・カオラック





Thailand Travel **Similan, Khaolak**
シミラン・カオラック



地球上の奇石の景色に漂う

3本目は、Elephant head rock に向かった。水面から突き出た岩が、象の頭に似ていることから、名付けられたポイントだと教えてもらった。エントリーして、少し浅い深度で全体を俯瞰しながら漂う。いくつも奇石が重なり、他ではあまり見ない海中景観が広がっている。何度か潜っているが、より広い視点で見直してみると、このポイントの特異性を再認識した。そして、深度を下げて、奇石の重なりが作るアーチの穴を潜っていく。潜り終えると、まるでお魚の街のシンボルのように、丸ビルと呼ばれる巨石が立っている。潮あたりのない側にお魚がごっちゃりと群れ、カスミアジなどがアタックを仕掛けていた。巨石がちょうど影をつくり、良い感じにドラマティックな雰囲気となった。



暮れ時の海中世界は、 光と生命の誕生に溢れる

クルーズ船は、シミラン NO.8 のドナルドダックベイに到着。4本目のサンセットダイブは、その近くの turtle rock に着いた。6時前にエントリーし、まだ明るい海底を進んでいく。夕暮れに近づくにつれ、スカシテンジクダイが岩陰から飛び出して、根の周囲で泳いでいる。その近くで、キンギョハナダイやフレームバスレットが求愛行動を行っている。彼らの求愛行動の周囲では、スカシテンジクダイが花火のようにキラキラと輝いていた。そして、ガイドの健さんに手招きされて少し移動。小さな円錐の岩に注目していると、エイブルズ・エンゼルフィッシュが居て、時間が経つにつれ、6匹ほどが集まってきた。日中ではまず見ない行動。周囲は夕方の暗い光が進む頃、2匹が共に岩から離れ、放精放卵を行った。それは4回ほど行われた。魚の生態行動を見たり、撮影したりすると、それは忘れられない1ダイブとなる。そして、真っ暗になった水中で、またスカシテンジクダイの群れを撮影。真っ暗な空間に星が輝いていた。

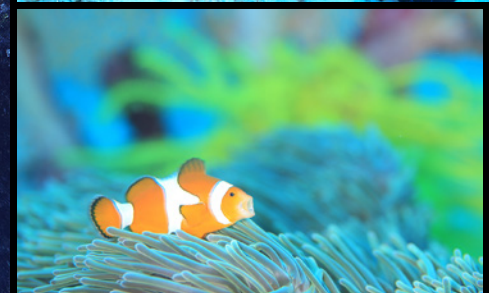
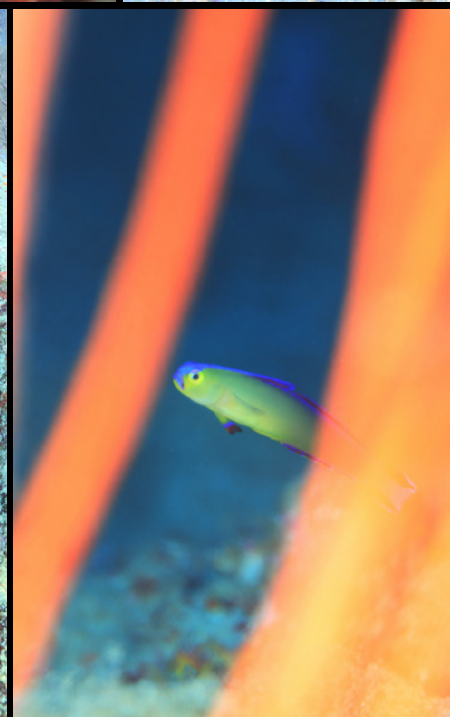




シミラン諸島の北端のポイント群

Thailand Travel **Similan, Khaolak**
シミラン・カオラック

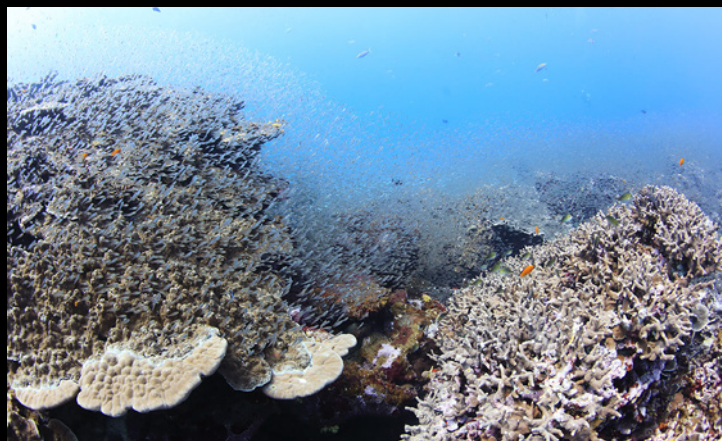
クルーズ2日目の1本目は、three trees。本当は、2本目に落ちる north point を予定していたが、別のクルーズ船が2隻も落ちるということで、ポイントを変更。そのような情報網もあり、私たちは人の少ないポイントにエントリーできる。three treesは、白い砂地にサンゴのパッチリーフが点在する。サイズも大小様々で、それぞれにイソバナ、ウチワ、ソフトコーラルがあり、スカシテンジクダイが群れていたりする。ワイドの景観も素敵だが、今回はマクロの撮影に集中してみる。まずガイドの健さんが見せてくれたのが、ニシキフウライウオ。黒い個体で撮影しやすい場所にいてくれた。ウチワを背景にし、旬だったヤマブキスズメダイの大きさを撮影。その他、オーロラゴビーやガラスハゼ、珍しいベニハゼ、そして、たまたま今回、同じ船に乗り合わせた友人ダイバーの500本記念を撮影した(笑)。2本目はnorth pointへ。シミラン諸島で最も北にあるポイントで、このビッグブルーのクルーズトリップでは、毎回潜っているような気がする人気ポイントでもある。離れ根にウミウチワが連立する根が連なり、そこが一つの見どころでもあるが、毎回その魅力をお見せするには、拙い写真ばかりになり、申し訳ない。ポイントの良さを表現するには、なかなか難しいフォト派ダイバー泣かせのポイントかもしれない。メインの根に戻り、面白い地形やモンツキカエルウオやシシマイギンボなどの撮影を安全停止中に行った。





白化現象を超えて、復活するサンゴたち

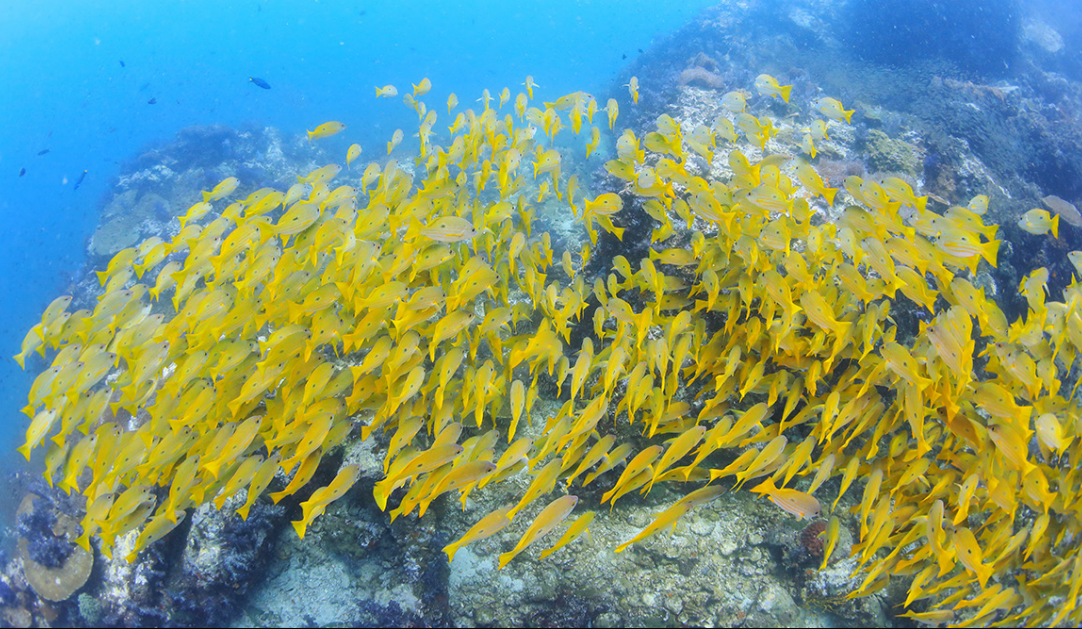
3日目、クルーズは北上して、コボンに到着。最初は、水深を30mほどまで落として、ガレ場に到着。そこはマッコスカークラスが集合していて、そこそこでオスのフラッシングを見ることができる。数も多いので、撮影は思い通りに進んだ。しかし目的はその美しいベラではなく、ホカケハナダイという他ではほぼお目にかからないハナダイ。大きな帆を広げる姿が印象的で、是非撮影したいと頑張ったが、とても動きが早く、隣で泳ぐマッコスカークラスが止まっているように見える……（少し大袈裟ですが……）。結果、撮影は成功せずに、最終日にもう一度潜るコボンに宿題を残した……。少し移動して、サンゴの美しい群生地に。数年前にサンゴの白化現象で、姿を変えてしまったサンゴが現事に復活を遂げていた。そして、周囲には、雲のようにスカシテンジクダイが群れ、スズメダイたちが元気に泳いでいる。かつてのコボンを彷彿とさせる。そこでお魚まみれになって撮影をした後、頭上に現れたバラクーダの群れに誘われるように安全停止を終えた。



カジキ! カジキ! カジキ! 頭上!

4本目は更に北上して、コタチャイへ。夕暮れ前にエントリー。事前にマンタが出ていたと聞いていたので、周囲を伺いながら進んで行くと、「頭上を見ろ!」という合図が。大きめのお魚が6匹、旋回しながら泳いでいる。そして、時折大きな背びれをバタバタと広げている! なんとバショウカジキだった。私は手に持っているカメラが超広角レンズであるということを後悔しながら、水面に向かいファインダーを覗いた。思い通りの大きさには映らないが、それでもシャッターを切った。10秒ほどの出会いだったが、それはまさしく海からの贈り物だった。その後も夜に向かう海中で、星のようなスカシテンジクダイをたくさん撮影した。

Thailand **Similan, Khaolak**
Travel
シミラン・カオラック



お魚まみれのリチェリューロックへ！

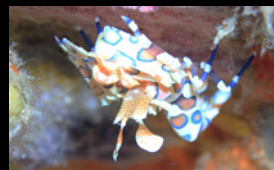
3日目の1本目も、昨日の最終ダイブと同じコタチャイへ。朝、生まれたての光の中に飛び込んでいく。潮あたりの良い根の辺りに行くと、バナナフュージャーやイエローバックフュージャーなどが群れ、そこにロウニンアジやカスミアジが突っ込んでいく。静かな朝のはすが、海中は目まぐるしく大小様々なお魚が慌ただしく泳いでいる。そんな生命の攻防を見上げていると、ゆっくりとバラクーダの群れがその向こうに現れた。ダイバーが憧れる景色が、2つ重なり、素晴らしい朝となった。

2本目は、今回のメインのポイントであるリチェリューロックへ。今年のリチェリューロックはこれまでにないほど魚影が濃いと聞いていたが、エントリーして、根のトップを見た時点で、それを実感した。驚いたのは、根を覆うようにロウニンアジが徘徊していたこと。そして、彼の向かう先には、フュージャーの仲間の子どもたちがいくつも群れを作り、逃げ惑っていた。根全体に視点を向けると赤いソフトコーラルは咲き乱れ、所狭しとスカシテンジクダイがべったりと岩肌を覆っていた。とんでもない魚影の濃さ。そして、その周囲で撮影していると、ロウニンアジとキツネフエフキが大きな大きな群れを作っては、これまた徘徊している。いつでも獲物がいれば襲う態勢で、接近するとなかなかの迫力だ。根のどこに行ってもお魚まみれで、本当にかつてないほどの最上級のポイントに仕上がっていた。

何度潜っても潜り足りないリチェリューロック

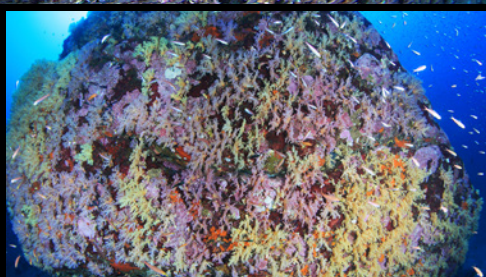
3本目は、離れ根に向かった。水深約30mの沈んだ根は、白系のソフトコーラルに覆われ、他と同じように、スカシテンジクダイやフュージャーの子供たちが群れていた。その根の隣には、ギンガメアジの群れが大きなトルネードを巻いている。その二つの景色は、絶対に忘れることのできないほど圧倒的な景色だった。私はこの景色をうまく撮影できるのか……と疑心暗鬼のまま、撮影を続けた。時折、想像以上の景色に出会うと、果たして今の自分が、これをしっかりと撮影できるだけの準備をしてきたのか……と自問自答をし、勝手に苦しんでいる。ナイトロックスを使用しているおかげで、少し深い深度だが、ゆっくり撮影をし、メインの根に移動した。下のキンセンフエダイがトルネードを巻いている。昨年まではあれがメインでもおかしくはなかったはずだが、今年はどうも脇役のようだ。

明るいうちに4ダイブを終えたいと言うみんなの希望で、少し早めのエントリー。まず先ほどの離れ根まで行く。潮の流れが反対方向に流れ、ギンガメアジの姿はなかった。それでも豊かなソフトコーラルと魚群は健在で、しっかりと目に焼き付け(?)ることができた……(撮影ももちろんしました……)。また十分撮影した後に、メインの根に戻り、今度はマクロ祭り。タイガーテールシーホース、イザヨイベンケイハゼ、プリンデエビ、トマトアネモネフィッシュなどの可愛い生き物を順序良く見せてもらった。そして最後、浅瀬で、水面から溢れるオレンジ色の斜光と緑の山脈を撮影して無事に1日のダイビングを終えた。





Koh Bon



最終日は、コボン&ボンスーンレック!

最終日、クルーズ船は再びコボンへ。今回の目的はホカケハナダイ。他ではなかなかお見かけしない魚種で、一度見たいと思うていた。ガイドの健さんの後をついて、水深30mあたりへ。ガレ場になった場所にマッコスカズラスが、たくさん群れている。その中に一際、泳ぐ速度が速いお魚がいる。実はそれがホカケハナダイ! ののだ! 時折大きな帆のような背びれをフラッシングする。とにかく素早い。マッコスカズラスがちょっとのろまなお魚のようにも思えてきた…… (そんなことはないですが)。まだまだ撮影したい気持ちをぐっと堪えて、浅瀬の向かい、美しいサンゴ礁の撮影を開始した。その後は、ボンスーンレックへ。砂地に壊れた沈船が横たわる。立派な漁礁になっていて、キンセンフエダイなどの群れが、沈船を覆う。エビなどマクロの生き物も各箇所で見つかり、いろんな視点で楽しみ、ダイビングを終えることができた。



Thailand **Similan, Khaolak**
Travel
シミラン・カオラック



Boonsung Wreck



今回、お世話になったクルーズ船・ハレルヤ号

タイでは最大級のダイビングクルーズ船の一つで、揺れに強いのが特徴の一つ。ダイビングを主な目的とした船で、後尾に広い専用のダイブデッキを持つ。1日4本のダイビングも無駄な移動がなくとても楽チン。全ての部屋にプライベートなバス・シャワー付き。部屋のようなプライベートな空間とダイニング、サンデッキなどの公共の寛ぐスペースが十分に確保されているので、快適にクルーズを楽しむことができる。食事も定評があり、朝食は、パン、卵料理やソーセージ、サラダなどの洋風スタイル。ランチ&ディナーは、美味しいタイ料理を中心に、パスタなどのインターナショナル料理が並ぶ。クルーやスタッフも気が利き、ホスピタリティがあるので、毎日ストレスなく楽しむことができる。



ビッグブルーカオラック

キャリアの長い日本人ガイド陣が集うダイビングセンター。オーナーガイドの大村健さんは、タイ在住20年。オーナーが日本人なので、ポイント選び、食事など日本人ゲストが楽しんでもらえる環境を作り、できる限りニーズに合わせたサービスを行っている。ファンダイバーや初級者、ブランクダイバーはもちろん、フォト派ダイバーのゲストも多い。マレー半島の東側のタオ島にもお店があり、タイの海を包括的に案内してくれる。





Thailand Travel **Similan, Khaolak** シミラン・カオラック



ダイビングもリゾートライフや 町遊びも楽しみたい!

ビッグブルーカオラックでは、ダイブクルーズ船だけでなく、毎日のデイトリップも行っている。日替わりで行き先は決まっているが、およそシミラン諸島、コボン&コタチャイ、リチュエーロックの3パターンがある。朝、各リゾートにピックアップがあり、カオラックから車で約30分北上したバンナムケン港へ。港にはビッグブルー専用の建物があり、そこで出港前まで、コーヒーを飲んだりゆっくりすることができる。目の前の桟橋からスピードボートに乗り込んで出港する。各ポイントまでの所要時間はおおよそ1時間。そこで1ダイブを行い、美味しいタイ料理のランチに舌鼓を打ち、もう1ダイブ（シミラン諸島の場合、以前は島に上陸していたが、今は島に上陸する観光客が多いので行っていない）。デイトリップは合計2ダイブを楽しんで、おおよそ午後3〜4時に帰港。その後リゾートに戻り、シャワーを浴びても十分にカオラックの街で食やショッピングを楽しむことができる。長い休みを取らないとクルーズに参加できないが、デイトリップは短い日程でもアレンジが可能なので、よりお手軽に参加できる。



どろりんちょ&ムツゴロウ!

ビッグブルーオリジナルポイント、その名は「どろりんちょ」

オーナーガイドの大村健さんのオススメのダイビングポイント。汽水域でのダイビングで、メジャーな海らしいポイントではない。一見地味な環境で、マニアックなダイバー垂涎のマクロポイント。特にハゼが見どころで、アドニスシュリンプゴビー、イエローウォッチマン、ブルーシュリンプゴビーなどハゼの仲間が数多く、また種類も豊富に見ることができる。水深は7mで、約1時間のマックダイブを楽しむことができる。



Thailand **Similan, Khaolak**
シミラン・カオラック



最終日は、「外国版ムツゴロウ!」

カオラックの街から車で約2〜30分移動した干潟での観察となる。見られる生き物はムツゴロウやトビハゼの外国種。干潟だが、観察に適した足場があるので汚れることはなく、近距離からスマホでも簡単に撮影できる。たくさんいるムツゴロウは、青いドット柄がカラフル。魚だか歩く姿がとても可愛い。特に水を頼っている表情や、猫のように、体を濡らすためにコロんと寝転ぶ姿もキュート。意外に喧嘩っばやく、ヒレを広げ、口を大きく開けて、威嚇し合う。これまで最終日は、タイマッサージやエレファントトレッキングをお勧めしていたが、ダイビングセンターらしいアクティビティということで、今ゲストにお勧めしている。